

アクティブラーニングの実践

菊池 健

1 テーマについての考察

近年、アクティブラーニングの指導の推奨がされている。そもそもアクティブラーニングとはどのような学習のことを言うのだろうか。2012年8月の中央教育審議会答申では、このように提言されている。

“アクティブラーニングとは、学習者である生徒が受動的になってしまう授業を行うのではなく、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法である。児童生徒が能動的に学ぶことによって「認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」内容とされている。”

なぜ、このような学習方法が注目されるようになったか、その背景には社会に求められる人材の変化がある。過去の、大量生産時代に合わせて設計された、規則・標準化を行う授業ではなく、自由化・多様化へと教育の重点分野が変更されることになっていった。これにより、ただ知識を増やすだけでなく、その知識をどう生かすことができるかが重要となり、教育現場でも求められるようになった時代背景がある。

2 実践内容

アクティブラーニングに基づいた、子どもたちが能動的に学ぶ授業について考え、小学校4年生における、総合的な学習の時間において実践した。

○単元名「印旛沼調査隊！～これからの課題を考えよう～」

○テーマ 児童の課題発見能力を高める授業実践

○内 容

児童が能動的に学習を進めるための手立てとして、まず、八千代市では身近でない印旛沼を身近なものとして感じさせるために、印旛沼での様々な体験活動を行った。例えば、印旛沼をボートで漕いだり、生息する水草を見て触ってみたり、水質検査を実際に薬品を使い取り組んでみたりした。また、水産センターのご厚意により、印旛沼で養殖されているウナギを見て触り、ウナギの蒲焼を試食させて頂いた。

様々な体験をすることで、児童は印旛沼に親近感を感じることができた。そこで、印旛沼のこれからの課題は何だろう？と発問をした。児童は様々な体験活動を思い出し、考えた。事前に体験活動の講師の先生に、印旛沼の課題を話して頂き、児童はそれを想起しながら、考えることができた。

次は、児童がそれぞれ考えた課題に対して、どうすればその問題は解決するのか考えさせた。その解決方法は現実味があるものでも、そうでないもの

でも認めて、児童の考えを大切にしたい。児童が解決方法をインターネットや本で調べていくうちに、自分の考えの過ち、未熟さに気付くことも学習の一環として大切にしたい。

自分の考えがまとまったら、各教科での学習を活かして、発表方法を選ばせた。国語科の学習でのリーフレットや社会科、図画工作科の学習でのポスター、理科の学習でのパワーポイントなど…。児童は自分に合った発表媒体を選び、意欲的に学習に取り組んだ。既習を活かし、どうすれば分かりやすいか、見やすいか、自分なりに考えて取り組んでいた。

発表相手も児童に考えさせ、保護者、6年生、同じ学年の別のクラスなど様々な相手に発表した。地域に伝えたいという児童の考えをクラスに広め、近隣駅である八千代台駅や、印旛沼近くの公園、施設に児童のポスターを掲示することができた。

3 成果と課題

今回の研究の成果として、実際に印旛沼に行き、様々な体験活動を経験できたことが課題発見力を高めることにつながったと考える。八千代市の子どもたちにとって、社会科で学ぶ印旛沼は身近なものではない。印旛沼を身近に感じさせるために、印旛沼環境基金を利用し、様々な体験活動に取り組んだことで、総合的な学習の時間への意欲はもちろん、印旛沼の現状を知るための大きなきっかけになった。

子どもたちの高い意欲は、主体的に学習に取り組む態度につながり、印旛沼の現状の課題は何か、考えた。体験活動でたくさんの種をまかれた子どもたちは、「課題を発見し、その解決策を考える」というゴールに向けて、スムーズに学習を進めることができた。そしてまとめたことを地域に伝える機会を作っていただき、校内だけでなく、地域にも学習活動を伝えることができた。

課題としては、子どもたちが考えた解決策をより深く具体的に考えさせる時間があったも良かったと考える。今回、子どもたちの自由な発想を促したかったので、子どもたちの解決策には実現可能なものと不可能なものなど様々あった。そこに深く言及し、「その方法だと困る人がいない?」「その方法でこの問題は止められるかな?」など子どもたちがより深く思考するための手立てを与え、より深く考えさせても良かったと考える。

4 おわりに

今回の研究を通して、子どもの深い学びには五感が強く影響すると改めて学んだ。今回の印旛沼での体験学習では、視覚、聴覚だけでなく、触覚、味覚、嗅覚までまんべんなく刺激して学習することができた。そのおかげで多くの体験活動が子どもたちの脳裏に刻まれ、それをもとに学習のゴールに向

けてスムーズに進めることができた。今回は総合的な学習の時間での実践だったが、五感を大切にする授業は他教科でも同様だと感じる。いつも通りの見て、聞いて、話してだけの授業ではなく、子どもに強い印象を与えるためには、子どものもつ様々な感覚に働きかける手立てを実践していきたい。

アクティブラーニングの一環として取り上げた課題発見力は、これからの社会を生きていく子どもたちにとって大切な力の一つだと思う。今自分に用意されている環境に満足せず、より良く、より高みを目指すためにはどうしたらいいのか考えていく力が今の社会には求められていると感じる。子どもたちが大人になったときにその力が花開くように、小学校段階の今の内から、課題発見力の素地をつくっていきたい。また、そのような授業を行えるように、日々努力していきたい。